

第2回定例会が閉会しました

6月19日、第2回定例会が閉会しました。閉会日には、議案などについての採決が行われ、なすまどか議員が補正予算についての反対討論、やまべひろし議員が「森友学園・加計学園問題の徹底究明を求める意見書」について賛成討論を行いました。

第3子の保育料無償化の拡充は大いに評価 認可外保育所への制度拡充を！

今議会に提案された第3子の保育料無償化案は、これまで3歳未満だったものを就学前まで拡充するとともに幼稚園

も対象としています。討論では、2000名の子どもが通っている認可外保育所についても対象とするよう求めました。

指定管理者制度～ 非正規雇用の増大に影響

老人福祉センターや社会体育施設などを指定管理者制度で運用するための予算が提案されました。討論では、指定管理者制度では非正規雇用が増大し、雇用の不安定化を招くことを指摘しました。

大型公共事業を見直し 暮らしや福祉の充実を！

西環状道路整備にむけた4億2900万円の補正予算については、熊本地震の被災者支援、市役所本庁舎の耐震強度の問題など様々な課題がある中で、長期的な財政の検証を行うとともに、大型公共事業を見直し、暮らし福祉の充実を図ること求めました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部ひろし

熊本市中央区手取本町1-1 3階

NO.1101

2018年6月24日号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団

検索



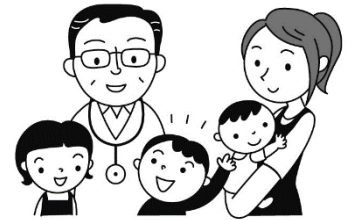
第2回定例会の主な議案等への会派の賛否状況

賛成○ 反対●

	共産	自民	連合	公明	未来	市政	教育	善進	明政	創世	和
2018年度熊本市一般会計補正予算	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国民健康保険の繰上充用（※）	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
「カジノリゾート整備法案」の廃案とともに、「カジノリゾート推進法」の廃止を求める意見書	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	○
TPP11関連法案の廃案を求める意見書	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	○
森友学園・加計学園問題の徹底究明を求める意見書	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	○

※ 国民健康保険の繰上充用とは？

昨年度、国保会計の累積赤字は27億円となりました。「繰上充用」とは、昨年度の赤字分を2018年度の国保会計より補てんするというものです。常態化した累積赤字の解消にむけ、一般会計からの繰り入れを抜本的に拡充する必要があります。



【控え室から】 小学校の部活動を考える

なすまどか

先日、小学校体育振興会の総会に参加しました。総会には、PTAの保護者や体育主任の先生が多く参加されていました。今、熊本市の小学校の部活動が大きく変わろうとしています。市教育委員会は、小学校の部活動を縮小し、社会体育へ移行する方針を示し、各小学校では様々な対応が迫られています。すでに、廃部を決定している学校、総合運動部を創設しようとする学校、地域のスポーツクラブとの連携を図ろうとする学校など取り組みは様々です。

勤務以外で、学校で過ごす時間が過労死ラインである月80時間をこえる教員は約20%。教員の多忙化をどう解決していくのか、とても大事な課題です。

しかし同時に、子どもたちが運動に親しみ、スポーツの楽しさや面白さを実感できる場をどのように保障していくのかという点も、重視しなければならない課題だと思います。

教員頼みの部活動という在り方が大きく問われる今、地域全体で子どもたちに運動の場をどのように保障していくのか向き合う時期にきています。指導者の確保、運動する場所の確保、運営のあり方など、学校と保護者と地域の連携が求められます。



教職員を増員し多忙化の解決を！

本市でも約20%もの先生が過労死ラインに

教職員の働き方について熊本市が行った調査で、時間外勤務が「過労死ライン」といわれる1か月80時間をこえる教職員が全体の19.5%にのぼることがわかりました。

国の教職員の定数基準では、一時間の授業に対して、同じ時間の授業の準備が必要であり、それが可能となるよう教職員を配置するとなっています。

しかし市が行ったアンケートでは授業準備の時間数は授業時間の3分の1しかとれていない結果となっています。

先生方の過酷な長時間勤務

や定数が全く足りていない実態が浮き彫りとなっています。



教職員の増員について―「外国語専科教員は10名を配置。再任用短時間教員の具体的な検討を進める」と答弁

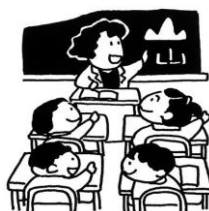
現場の先生方からは「マンパワーが足りない。市として国に増員をしっかりと要望してほしい」「時間短縮などの工夫だけでは、とても乗り切れない」など悲痛な声が上がっています。

やまべ議員は「抜本的な人員拡充が必要であり、そのために市が責任をもって予算確保

を行うこと」を求めました。

これに対し教育長は「マンパワー充実のため、新たに外国語専科教員を10名配置し、再任用短時間教員の配置の具体的な検討を進める」と答弁しました。

教職員の長時間労働是正のため速やかな対策が必要です。



スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心のサポート相談員の拡充を！

4月に発表された県・市教育委員会の調査では、震災で心に傷を受けケアが必要な児童生徒が約1,700人おり、依然高い水準にあることが示されました。

現在スクールカウンセラー(SC)の配置状況は、熊本地震対応ということで、国から全活動時間9,650時間中、4,310時間の補助が出ていますが、それでも小学校では各校に、月2回ほどの配置しかできない現状です。

やまべ市議は「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー(SSW)のさらなる拡充」「継続的に児童生徒に寄り添うことができる、心のサポート相談員については、市の予算も拡充し全校配置を検討すべき」と質しました。

教育長は「SC、SSWはモデル事業で週3日の配置を行い、今後配置を検討する」と答弁しました。



依然高い教職員の非正規率―安心して子どもたちと向き合える環境づくりを

本市では教職員の高い非正規率も問題です。

2015年度には、最も高い約12.1%の非正規率でした。本年度は約8.7%へと改善されたものの、それでも全政令市中、第3位という高水準です。

契約は1年ごとの更新で、同じ学校へは最長3年しか在籍できません。

毎年、雇用の心配をしなけれ

ばならないばかりか、子どもたちと継続的に向き合うことができないのは問題です。

やまべ市議の質問に対し教育長は「来年度は新規採用を増やす」とし、「適正な教職員配置に取り組む」と答弁しました。

